

## ▶▶▶ 関係人口創出プロジェクト

# 「きみの地域づくり学校」による多世代の 学びの場創出、「なりわい」創りを支援

## ▶ プロジェクトメンバー

○阪井 加寿子（食農総合研究教育センター）  
藤田 武弘（追手門学院大学教授、和歌山大学名誉教授）  
増山 雄大（食農総合研究教育センター）  
藤井 優希（紀美野町地域おこし協力隊、価値共創研究員）

○はプロジェクト代表

## ▶ 共創相手

きみの地域づくり学校運営協議会  
和歌山県紀美野町  
和歌山県

## プロジェクトの背景

農村の過疎化や高齢化が進む一方で、都市から農村へ向かう動きが、若者の間にも見られるようになってきた。地方創生政策による行政の支援もあり、「田園回帰」と呼ばれる都市から農村への移住や、移住せずとも地域に関わって応援する「関係人口」が増加している。都市から過疎地域等に住まいを移し、3年を任期として活動を行う「地域おこし協力隊」も年々増加傾向にあり、全国で6,813人（2022年）が活動している。このような隊員の約7割は40歳未満の若い世代で、任期終了後には半数以上が同じ地域に定住している。若者が農村で定住するには、「なりわい」となる仕事を持つことが必要である。移住者や地域おこし協力隊は、起業を考える者も多く、都市とは違い、地域住民との関係に理解や配慮が求められる農村における起業の支援は、重要課題である。

和歌山県紀美野町は、全国的にも早い時期から移住・定住促進事業に取り組み、これまでに多くの移住者を受け入れてきた。移住者の起業により町内には飲食店や農家民泊、農林業者による6次産業化等、特徴ある事業や集客拠点が広がっている。

このような中、関係人口創出プロジェクトを社会実装型研究として位置づけ、移住事業者や紀美野町等との産官学の連携により「きみの地域づくり学校」（事務局：紀美野町まちづくり課内）を開校し、農村における「なりわい」づくりをテーマにプロジェクトをはじめた。

## プロジェクトの目的

きみの地域づくり学校の目的は次の3つである。

## (1) 関係人口・還流人口（Uターン者）の創出

農村では、進学などを機に都市へ出た若者の多くがふるさとに戻らず都市で就職し、地域の過疎化に拍車をかけている。学生などに農村で暮らすことの豊かさや意義を伝え、将来の関係人口・還流人口に繋げる。

## (2) 地域おこし協力隊や移住者の定住支援

地域おこし協力隊の定住後の仕事をみると、企業等への就職とともに、約4割が起業し、約1割が農林業に就業している。農村で起業する意義や事例を学ぶ講座、またメンター（先輩事業者）とつながるインターンシップを実施し、地域おこし協力隊等の農村での仕事づくりを支援する。

## (3) 行政職員のリスクリング

農村や地域の産業に触れる機会や多世代の交流による学びの場を提供することにより、地域支援活動を行う行政職員のリスクリング（必要とされる新しいスキルの獲得）に資する。

## プロジェクトの活動内容

きみの地域づくり学校は、2023年5月13日に開校式を行い、初年度は、高校生から社会人まで、56名が受講した。分野別にみると、会社員や農協職員、4市町の地域おこし協力隊、県・町の職員、地元住民、学生で、幅広い分野から参加した受講者が集う、多世代

の学びの場となった(表1)。

表1 分野別受講者数

分野	人数
民間企業・団体	9名
地域おこし協力隊	7名
行政職員(県・町)	4名
紀美野町住民	3名
大学生・大学院生	24名
高校生	9名
合計	56名

座学編は、5月から10月にかけて、大学の研究者等の専門家や事業者、また地元紀美野町内の先輩事業者から、各回のテーマごとに農村の価値や起業の意義等を学ぶ、全15講の講座を開催した(表2)。1泊2日の3講義を5回実施し、各回の初日に交流会を行った。会に講師も加わり、講義内容の深掘りや日頃の地域活動の相談など、異なる分野の参加者が一堂に会し、意見交換を行った。

また実践編では、10月から12月にかけて、参加を希望した15名の受講生が、メンターとなる先輩事業者のもとで、6～9日を基本にインターンシップを体験し、起業の現場を学んだ。(表3)。

表2 2023年度 座学編スケジュールと参加者数

	月日	内容		参加者数
		講師	講義内容	
第1回	5月	テーマ：都市農村交流とコミュニティビジネス		受講生 45名 関係者等 18名 計 63名
	13日	1 追手門学院大学 教授 藤田 武弘 (和歌山大学名誉教授)	都市農村交流と関係人口	
		2 (株) 秋津野 社長 木村 則夫	地域づくりとコミュニティビジネス	
	14日	3 風の古民家「うえみなみ」 代表 南出 典子	古民家宿の運営	
第2回	10月	テーマ：農業の6次産業化		受講生 30名 関係者等 26名 計 56名
	21日	4 和歌山大学 教授 岸上 光克	食と農の流通とマーケティング	
		5 善兵衛農園 井上 信太郎	みかん農家の継承と6次産業化	
	22日	6 きみのフルーツ 代表 吉瀬 雄也	新規就農と6次産業化	
第3回	7月	テーマ：「食」と起業		受講生 38名 関係者等 21名 計 59名
	8日	7 辻調理師専門学校 企画部長 尾藤 環	地域の食材とガストロノミー	
		8 ドーシエル 代表 戸田 晶	山の上のペカリー運営	
	9日	9 協和銀行 地方創生推進室 室長 大橋一喜、岡田善夫	地域におけるビジネスモデル・資金面から	
第4回	8月	テーマ：森林資源の活用		受講生 32名 関係者等 30名 計 62名
	26日	10 和歌山大学 教授 大浦 由美	森林資源の活用方策	
		11 (株) さとゆめ シニアコンサルタント 木俣 知大	観光、健康、教育分野で創出する「森林サービス産業」	
	27日	12 上中林業 代表 上中 広幸	林業、きこりのピザ屋 SOMAUD	
第5回	9月	テーマ：関係人口と地域おこし協力隊		受講生 31名 関係者等 21名 計 52名
	30日	13 法政大学 教授 関司 直也	地域における「なりわい」創り	
		14 NPO法人英田上山棚田団 理事 水柿 大地	棚田を核とした新たな農村コミュニティの形成	
	10月1日	15 くらとくり 紀州マルイチ農園 北 裕子	地域の資源を生かす	

表3 2023年度 実践編内容

	事業者名	内容
1	美里の湯 かじか荘(宿泊業)	1名(大学生)／5日 フロントやレストラン、売店等の対応
2	風の古民家「うえみなみ」(宿泊業)	2名(紀美野町民)／6日程度 宿泊準備や片付け、イベント手伝い等
3	Cafe&Guest House きみのさいか亭(宿泊業・飲食業)	1名(大学生)／5日 宿泊準備や片付け、カフェの裏方等
4	紀州マルイチ農園、くらとくり(農業・飲食業)	2名(会社員、地域おこし協力隊)／5日 栗の選果や稲刈り、もみの木食堂のホール業務
5	和花菜農園(農業)	1名(地域おこし協力隊)／9日 稲刈りや小麦の種まき等
6	秋津野ガルテン(農業)	3名(大学生)／6日 みかんの収穫等
7	農業生産法人 株式会社 Citrus(農業)	1名(大学生)／3日 みかんの収穫等
8	善兵衛農園(農業)	1名(会社員)／9日 みかんの収穫、イベント手伝い等
9	アンフィ合同会社(製造業)	1名(大学生)／9日 スクリーニング、イベント手伝い等
10	KATAKOTO CRAFTS(建築業)	2名(大学生、地域おこし協力隊)／6日 イベント企画と運営、リノベーション作業等

### プロジェクトの成果

2024年3月23日、第1回きみの地域づくり学校修了式を開催し、出席等の要件を満たした受講者29名に修了証書を手渡した。「きみの地域づくり学校まとめ」に掲載された修了レポートからは、参加者の様々な気づきや決意が見受けられる。

社会人では、ビジネスの可能性を見出す視点や地域とのつながりを築く必要性を学んだという移住予定者、ビジネスプランを具体的に考えられるようになったという地域おこし協力隊、出身地に戻り農業を始める予定だが、コミュニティスペースの開設などで地元を盛り上げたいと考える会社員などがいた。また、農村ワーキングホリデーに参加した大学生の中には、受入先と継続して交流し、農業について深く考えたいという学生や、改めて調査して論文にまとめたいという学生がおり、さらに高校生からは、大学レベルの話を、実際に事業を行う事業者の話と結び付けて考え理解が深まった、機会があればまた参加したいという意見があった。学校事務局は、今後も修了者と継続的に繋がり、情報交換や必要に応じてフォローアップしていきたいと考えている。

2024年度のきみの地域づくり学校については、新テーマを加え、一部に新たな講師を迎えて実施される。是非、多くの方に参加していただきたい。



第1回 きみの地域づくり学校修了式

プロジェクトに関するお問い合わせ

食農総合研究教育センター

<https://www.town.kimino.wakayama.jp/sagasu/machi/chiiikidukurischool/index.html>

